

## 第3章 基本方針と目標

### 1. 基本理念

#### (1) みどりの将来像

## 水・みどり・農、ともに生きる豊かな暮らし ～ えどがわ ecological プラン ～

本区では、平成14(2002)年策定の「江戸川区水と緑の行動指針」で『水・緑、ともに生きる豊かな暮らし』をみどりの将来像に設定し、平成25(2013)年に策定した「江戸川区みどりの基本計画」においても、引き続き同じ将来像を掲げてきました。

これは、豊かな水辺とふれあい、身近なみどりを育てる喜びをともに感じながら、自然と共生し、区民が毎日楽しく生活する姿を表現したみどりの将来像です。

本区を取り巻く状況は日々変化し続けていますが、本区では今後も区民と区が協働しながら、これまで育てたみどりの質をいっそう高め、全ての人が笑顔で暮らせるまちを築き、水とみどりが暮らしに憩いを与えるみどり豊かな都市を目指していきます。

そこで本計画では、これまでの将来像に江戸川区らしい風景の重要な要素である『農』を追加し、さらに、本区の豊かな自然資源を活かした生物多様性の保全を掲げ、新たに『水・みどり・農、ともに生きる豊かな暮らし～えどがわ ecological プラン～』を将来像とします。自然の豊かさだけでなく、心の豊かさや人と人との関わりなど、みどりを通じて豊かな暮らしを実感できる江戸川区を目指していきます。



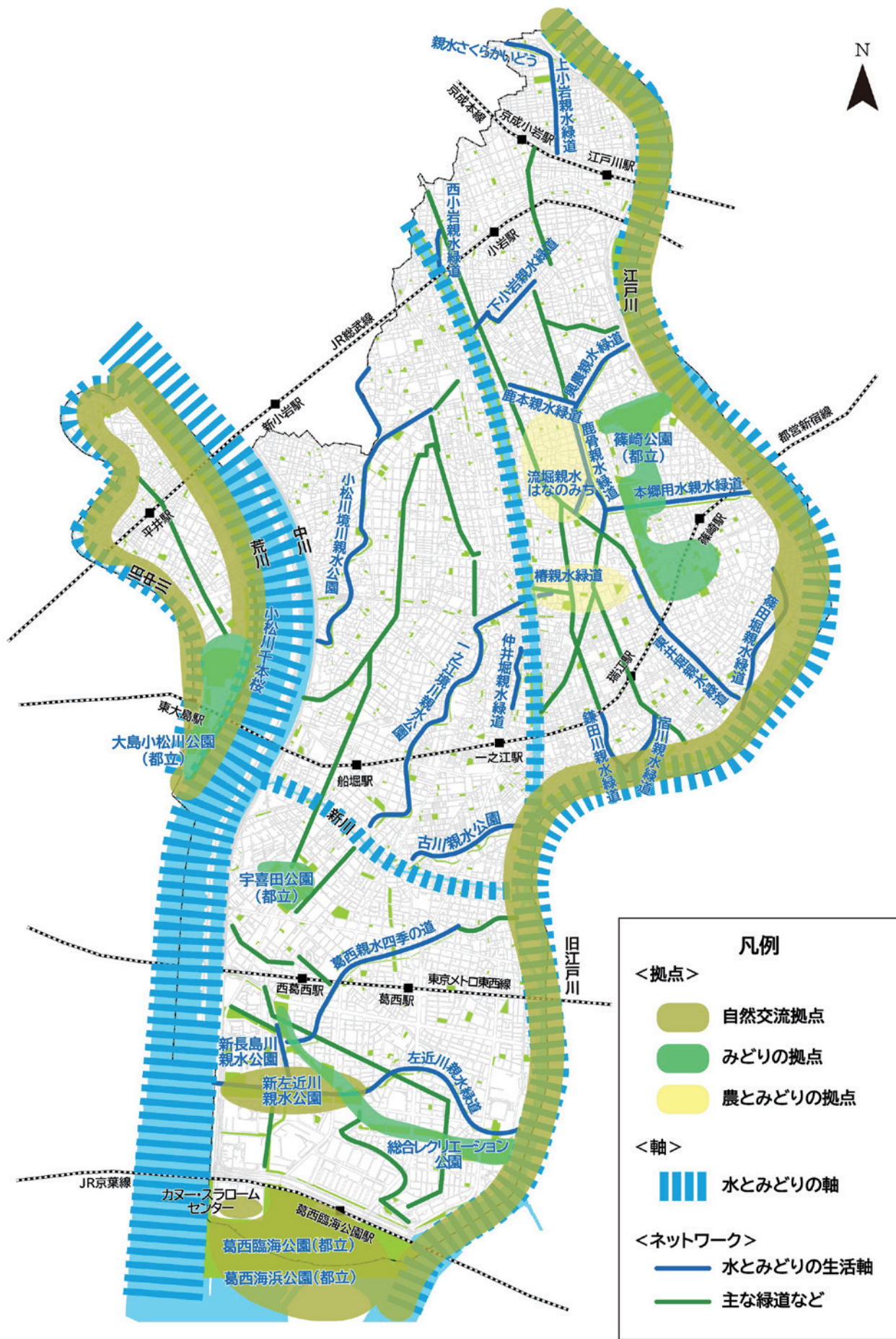
# 2100年の江戸川区のイメージ



## (2) 水とみどりの将来構造

みどりの将来像を実現するための水とみどりの将来構造を以下のように設定します。

都市構造を構成する要素
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 交流や賑わいと自然と触れ合う環境を創出する「拠点」</li><li>・ 拠点間を連携する河川など「軸」</li><li>・ 親水緑道や親水公園など拠点や軸を繋ぐ「ネットワーク」</li></ul>
拠点
<p>①自然交流拠点 葛西臨海公園・葛西海浜公園、カヌー・スラロームセンター、新左近川親水公園、江戸川・旧江戸川河川敷、旧中川を「自然交流拠点」として位置づけ、水とみどり、自然との触れ合いによる広域的な交流や賑わいの創出を図ります。</p> <p>②みどりの拠点 大規模な公園である篠崎公園、宇喜田公園、大島小松川公園、総合レクリエーション公園を「みどりの拠点」として位置づけ、各公園がもつ機能の特長を活かし、生物多様性の確保に配慮しながら多様な機能で自然に親しむことができる空間形成を進めるとともに、広域的な交流や賑わい創出を図ります。</p> <p>③農とみどりの拠点 特産である小松菜、花卉<sup>かき</sup>をはじめ、各種農産物を生産している農地が集積するエリアを「農とみどりの拠点」として位置づけます。農地の保全を図りながら、農業に由来する歴史・文化の体験機会の創出や農と触れ合うことのできる空間、農と一体となったまちなみ景観を形成します。</p>
軸
<p>①水とみどりの軸 荒川・中川、江戸川・旧江戸川、新中川、旧中川、新川を「水とみどりの軸」として位置づけ、生態系の保全や水辺に親しむことができる環境を充実するとともに、水辺を活かした賑わい創出を図ります。</p>
ネットワーク
<p>①水とみどりのネットワーク 拠点と軸を緑道や街路樹などの連続したみどりで結ぶことによって、回遊性のある、アメニティ性の高い都市環境を創出します。また、河川や親水公園・親水緑道などの自然環境は、生態系に配慮しながら保全するとともに生物生息のネットワークとして活用し、生物多様性の確保を図ります。</p> <p>さらに、ネットワークが不足する地域の整備や軸と隣接する公園、公有地・民有地とも連携し、水とみどりの総合的な環境を充実させます。</p>



水とみどりの将来構造

### (3) 生物ネットワーク

第1章で示した近隣自治体における水とみどりの拠点や軸などをもとに、本区におけるエコロジカルネットワークや生物多様性拠点を設定します。周辺自治体とのつながりを踏まえた上で、本区内にある生物の拠点となるような緑地や公園などの拠点を、河川や親水緑道などの軸で繋ぎ合わせます。



本区における生物ネットワーク

## コラム 都市における生物多様性

生物は環境の中でしか生きられないという宿命を持っています。生物の生活に大きく作用する環境は気温と降水量です。熱帯雨林には多くの生物が生活しています。この地域は気温が高く、降水量の多い場所です。気温と降水量が豊かな地域は、生態系の基本となる植物が生活するのに最適な場所です。生態系における食物連鎖の原点となる植物が豊かな地域ともいえます。植物は無機物から有機物を生成できる



唯一の生物です。このため植物は生産者と呼ばれています。地球的にみると熱帯雨林の地域はもちろん、中緯度の大陸東岸の地域も夏雨気候帯に位置していることから植物の生育が旺盛な場所です。日本もこの夏雨気候帯の地域に位置しています。

多くの植物が生活していることは、これを食料とする動物も多いこととなります。植物の種類が多いと初めに植物を食べる一次消費者としての動物の種類も多くなります。次に一次消費者を捕らえて食べる二次消費者としての動物がいます。動物はさらに順番に次々に食べ物としての動物を捕らえて生活していきます。最終的に他の動物に捕らえられることが無い動物を高次消費者といいます。このことからみると人も高次消費者といえます。

多くの生物が生活するには、基礎となる植物が生活する場所が必要です。植物と動物が共存している自然の森や林では、さらに枯れた植物や死んだ動物などを食料とする生物がいます。これらの生物を分解者といいます。分解者は有機物を無機物に還します。これまでの生産者、消費者、還元者を生物群集といいます。これと大気、温度、水、土、代謝や体成分の材料などを無機的環境といいます。この生物群集と無機的環境によって生態系が構成されています。多くの生物の種類と個体による生物群集が生物多様性です。この生物群集は無機的環境と密接な関係をもちながら生態系を形成しています。植物の生活に不備な無機的環境の下では生物多様性を実現させることはできません。



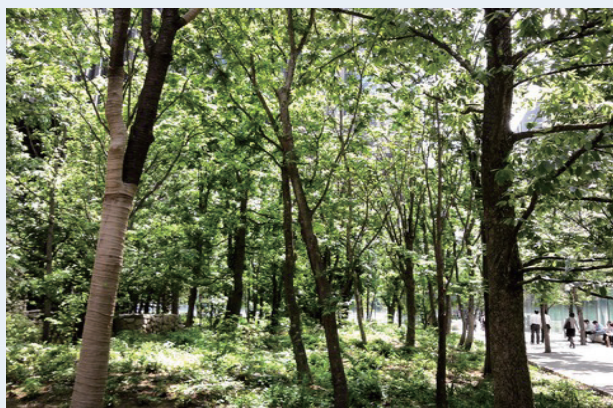


日本は植物の生育に都合の良い気候帯に位置していますが、自然界とは異なり人がつくった都市は高温、乾燥の環境になっています。都市の環境は人工環境ということができます。都市は、人の日常生活と経済活動が高密度に展開されている場所として、道路をはじめ建築などの構造物で地表は覆われています。基本的に地表で生活する植物にとって、都市は植物が生活する地表と生育の場としての地上と地下空間も狭小になっています。必然的に都市の生物群集は脆弱な状態になります。また偏った生き物が旺盛になる状況が起こります。

都市でも水撒きした場所や水溜りにトンボが飛来し、クスノキ科の街路樹にアオスジアゲハ、ミカン科の庭木などにカラスアゲハが飛来するなど植物と動物との関係をみることができます。また、砂利を敷いた屋上にコアジサシが営巣しヒナが誕生するなど人工的な無機的环境が動物の行動と一致する事例が見られています。

都市における生物多様性は、緑地を確保し草花や樹木を植栽することにより1次、2次消費者の生活を担保する環境整備が必要です。また、水要因が豊かな地域では水生植物（抽水植物、浮葉植物、沈水植物、ヤナギ類）を水の動態に合わせて植栽することで動物を誘い込むことは有効です。広場で夏草を伸ばした場所は秋の虫の生活の場となり、秋の夜の観鳴の場所などになります。

生物多様性は自然性の高い森や林、里山などがイメージの対象になっていますが、無機的环境によって生物多様性の原点である食物連鎖の生物は変化します。特に人の関わり方が大きく影響します。都市は、特殊な無機的环境によって緑を基盤とした生態系の中の食物連鎖が切断されているともいえます。その中でも、ある種の生物は生活史を展開しています。都市の無機的环境に対応した生物群集に焦点を当てた生物多様性の創出が求められます。



江戸川区みどりの基本計画改定委員会 委員長 濱野 周泰

## 2. 基本方針

基本理念を実現するため、下記の3つの基本方針を設定します。

### 基本方針1 みどりを守る

本区の豊かなみどりを形成する大径木や樹林地、農地などは、区民が身近にみどりを感じることのできる貴重な場所です。また、このようなみどりは、生物にとっても重要な生息地となります。

しかし近年これらの貴重なみどりが徐々に失われつつあり、特に農地面積は年々減少を続けており、次世代に継承するための対策が求められています。また、親水公園や親水緑道は江戸川区らしい景観を作り出している重要な要素であり、今後も守り活かしていくことが必要です。

これらの水とみどりを守っていくために、保全のための取組だけでなく、積極的な活用を進め、生物多様性保全の視点からも、区民が望む「自然が豊かなまち」を目指します。



### 基本方針2 みどりを育む

本区の貴重なみどりや農を次世代に継承し、生物多様性の保全を推進していくため、学校教育と連携し、子どもたちや次世代を担う新たな人材の発掘や育成をしていくとともに、ボランティア活動の推進やイベントの開催などを通じて、子どもから高齢者にまで、みどりを育む活動を広げていきます。

また、より多くの区民に水とみどりの活動に関心を持ってもらうための情報発信など、区民のみどりに対する意識を高めるための取組を推進します。

今後も区民・事業者・区が、それぞれの役割を担いながら一丸となってみどりを育てていきます。





## 基本方針3 みどりを創る

新型コロナ危機を契機に、運動不足の解消やストレス緩和の効果が得られる身近な自然資源である公園や水辺などのオープンスペースは、人々が憩い集う場所として重要性が高まっています。また、公園・緑地、水辺空間、都市農地など、まちに存在する様々なオープンスペースは地域の多様なニーズに応じて柔軟に活用することが求められています。

みどりの量の確保だけでなく、自然生態系の保全に配慮したみどりづくりや、良好で持続可能な都市環境の形成に資するみどりの創出・活用など、みどりの質への配慮が重要になります。

具体的には、これまでと同様に歩いて行ける公園を充実させるだけでなく、社会情勢に合わせた新たな公園の整備や、既存公園の見直し、農地と公園との一体的な活用による公園整備など、地域特性を活かし、新たなニーズに対応したオープンスペースの整備を進めます。なお、公園やオープンスペース整備の際には、エコロジカルネットワークを意識しつつ、生物の生息環境となる空間の確保に努めます。



また、公園・水辺の整備や管理運営に民間活力などを導入し、賑わいづくりを推進するなど、誰もが笑顔で暮らせるまちを目指します。

本区では、首都直下地震や都市型水害などに対する、区民の防災意識が年々高まっています。公園の高台化、公園の防災施設の整備や防災農地の活用など、災害から暮らしを守り、安心して暮らせるまちづくりを進めるとともに、地球温暖化やヒートアイランド現象の緩和につながる水とみどりのネットワーク化を進めます。



### 3. みどりの目標

本区が目指す「みどりの将来像」の実現に向け、「量（ハード）」・「質（ソフト）」について、「生物多様性」の視点も踏まえた目標を設定します。

計画目標 1 《ハード目標》			
<b>区民と協働でみどりづくりを推進する</b>			
指	標	現状値	目標値
区内のみどり率		30.8 %	31 %
区民一人あたりの公園面積(陸域)		5.3 m <sup>2</sup>	5.5 m <sup>2</sup>
身近な公園の充足率		92.3 %	97 %

※みどり率は平成30(2018)年の数値を使用

みどりの量の豊かさを計る指標である「みどり率」は、本区が昭和45(1970)年から「ゆたかな心、地にみどり」をスローガンに、区民一人あたりの樹木数と公園面積の目標値を10本、10m<sup>2</sup>として継続して区民と協働で取り組んでいる緑化運動の成果を示す指標でもあります。

公園面積は平成元年に葛西海浜公園の開園により海域を含み区民一人あたり10m<sup>2</sup>を達成し、樹木数は令和4(2022)年に区民一人あたり10本を達成しました。

これからは、「区民と協働でみどりづくりを推進する」を目標とし、区民一人あたりの陸域公園面積10m<sup>2</sup>を目指します。そこで、この目標の達成状況を指標として「区内のみどり率」「区民一人あたりの公園面積」「身近な公園の充足率」を指標に設定します。



緑化運動



緑化運動

計画目標 2 《ソフト目標》

江戸川区らしい魅力あふれるみどりを実感できるまちづくりを推進する



指 標	現状値	目標値
「公園」「水辺」の整備に満足している区民の割合	66 %	80 %
アダプト活動加入者数	10,366 人	12,300 人
「みんなのこうえん」の公園数	1 園	16 園
生物の住処となる バイオネスト*を設置している公園数	5 園	65 園
自然観察会や生物調査などの年間参加者数	1,713 人	2,000 人

本区では昭和45(1970)年から実施してきた緑化運動により、現在では23区で一番広い公園面積を誇っています。これらの「公園」や「みどり」に対し、区民が愛着を持って、今以上に活用できるようにするには、区民の皆様から愛着を持っていただくことが重要です。

そこで、「江戸川区らしい魅力あふれるみどりを実感できるまちづくりを推進する」ことを目標に、これを計る指標として「公園」「水辺」の整備に満足している区民の割合、「アダプト活動加入者数」を設定します。

また、本区は3方向を河川・海に囲まれ、23区内では比較的豊かな自然環境や生態系を有しています。この自然環境や生態系の豊かさは本区の魅力でもあります。そこでこの魅力を計る指標として、「バイオネストを設置している公園数」「自然観察会や生物調査などの年間参加者数」を設定します。



アダプト活動



バイオネスト

みんなで作ろう！ステキな公園



# 地域で育む みんなのこうえん

## ＼ はじまっています ！／

~Enjoy! Edogawa Park Life~

地域の仲間と  
青空の下でヨガを  
やりたいけど、  
できるのかな？

家族で週末  
ピクニックを  
やりたいな！  
仲間も誘って、  
みんなと楽しく  
できたらいいな！

地域のみなどと  
防災イベントを  
やりたいな！  
できるかな？



### みんなのこうえんについて

地域の皆さんにとって身近な公園が「地域の庭」  
のようになってほしいという思いから、はじまっ  
た江戸川区の取組です。公園を活用しながら  
皆で住み続けたいまちづくりをはじめませんか？

まずはご相談ください！